

## セキスイ電気温水器

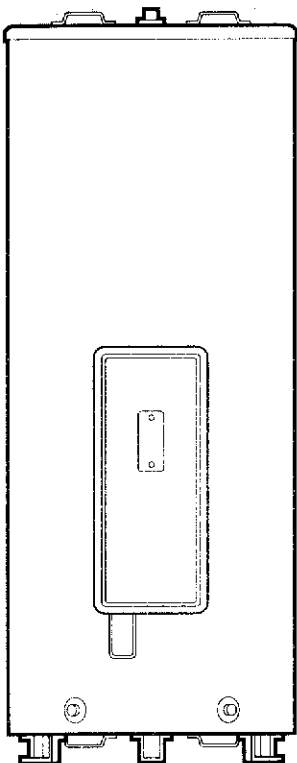
### 取扱説明書

いつまでも快適にお使いいただくために、使用前にお買い上げいただきました温水器の形名をおたしかめください

**深夜乙型 (8時間通電  
温度切替えタイプ)**

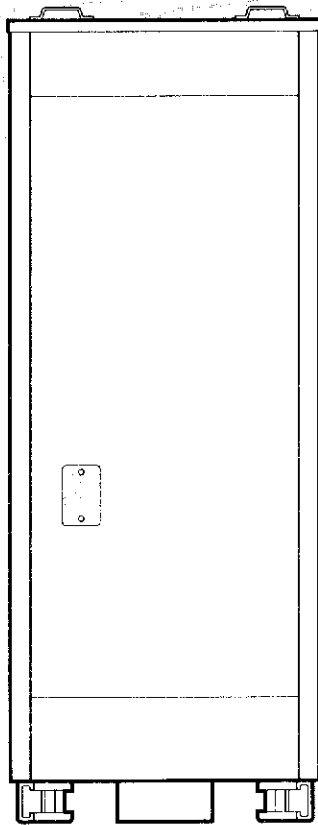
丸型

MS-30S86K  
MS-37S86K  
MS-46S86K  
MS-46S86AK



角型

KS-37S86K  
KS-46S86K



このたびは「セキスイ電気温水器」をご購入いただきありがとうございました。

この説明書は、電気温水器の正しい取扱いかた、お手入れのしかたなどをまとめています。

快適にご使用いただくため、お使いになる前によくお読みください。また、お読みになった後は、保証書とともに見やすいところに保存してください。

お引き渡しの前に、配管、電気配線の点検および試運転は完了しています。

ご使用前につぎのことをご確認ください。なおご不明なことがありましたら、工事店にお問い合わせください。

- 配管および弁類は保温されていますか。
- アース工事がなされていますか。
- 電源工事がなされていますか。
- 保証書を購入店(工事店)からお受け取りいただけましたか。まだの場合は、購入店(工事店)にご請求ください。

#### 目次

|                |    |
|----------------|----|
| 1. 安全上のご注意     | 1  |
| 2. ご注意とお願い     | 4  |
| 3. 各部の名称とはたらき  | 6  |
| システム各部の名称とはたらき | 6  |
| 4. 操作の手順       | 7  |
| 5. 調子がおかしいとき   | 9  |
| 6. お手入れのしかた    | 10 |
| 7. 保証とサービスについて | 裏面 |
| 8. 仕様          | 裏面 |

# 安全上のご注意 つぎのことは必ず守ってください。

- ご使用になる前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した警告事項・注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。



## 警告

この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



## 注意

この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

### 図記号の例



分解禁止

このような絵表示は、してはいけない『禁止』内容です。  
左図は分解禁止を示します。



感電注意

このような絵表示は、『注意』していただく内容です。  
左図は感電注意を示します。



アース工事

このような絵表示は、必ず実行していただく『強制』内容です。  
左図はアース工事を示します。

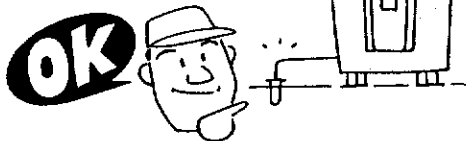
## 警告

アース工事がされているか確認すること。



アース工事の確認

故障や漏電のときに感電するおそれがあります。  
アースの取付けは販売店にご相談ください。



前面カバーは開けないこと。



前面カバーは開けない

感電のおそれがあります。  
漏電遮断器のテストおよびリモコンや本体の切替えスイッチ以外は手を触れないでください。

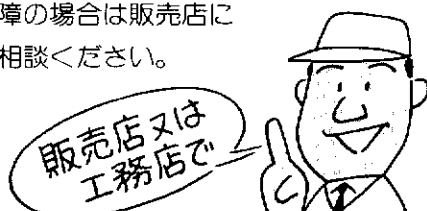


修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造はしないこと。



分解禁止

修理に不備があると発火したり、異常動作してけがをすることがあります。  
故障の場合は販売店にご相談ください。



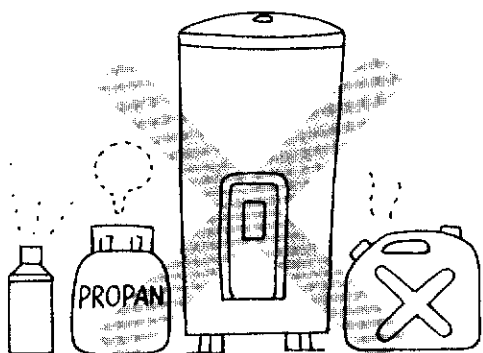
## 警告

温水器の近くにガス類や引火物を置かないこと。



ガス類引火物は近づけない

ガス漏れなどがあった場合、電気部品のスパークで発火することがあります。



給湯時は湯水混合水せんに手を触れないこと。



給湯時水栓にさわらない

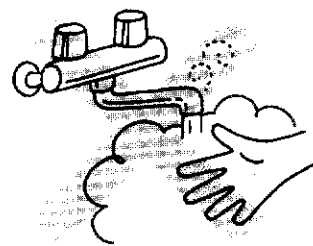
熱湯でやけどするおそれがあります。

湯水混合水せんをご使用の場合は、まず水側バルブを開き、徐々に湯側バルブを開いて湯温を調節してください。また止めるときは湯側バルブを先に閉めるほうが安全です。

特に朝の使いはじめは、湯側から空気の混ざった熱湯がでることがあります。

水栓は湯水混合水せんを使用することをおすすめします。特に浴室ではサーモスタット付混合水せんなどの使用をおすすめします。

断水中にシャワーの水を使わないでください。

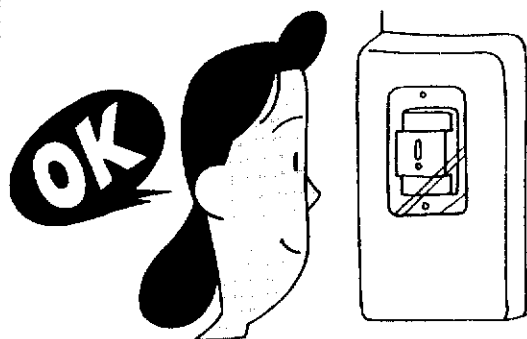


漏電遮断器の動作を確認すること。



漏電遮断器の動作確認

漏電遮断器が故障のまま使用すると漏電のときに感電するおそれがあります。故障の場合は販売店にご相談ください。



排水時は配管や排水に手を触れないこと。



熱湯注意

逃し弁点検時やタンク排水時は、排水管や排水に手を触れないでください。やけどすることがあります。

## 注意

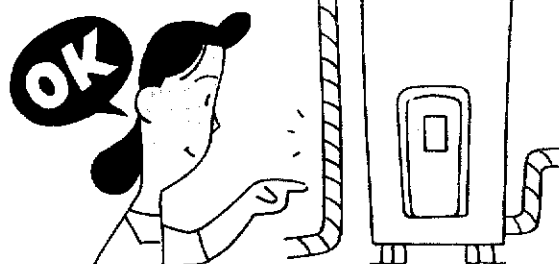
凍結防止対策の確認をすること。



凍結防止の確認

配管が凍結して破損するとやけどするおそれがあります。

凍結防止工事、保温工事は販売店にご相談ください。



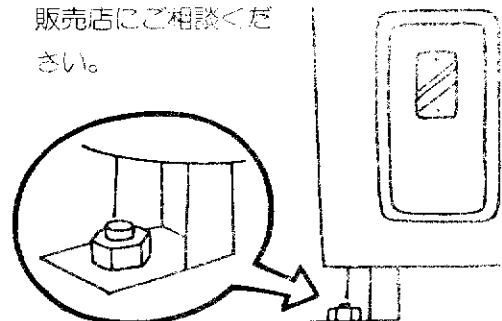
温水器の脚がアンカーボルトで固定してあるか確認すること。



脚固定の確認

地震などで本体が倒れてけがをすることがあります。

脚固定がない場合は販売店にご相談ください。



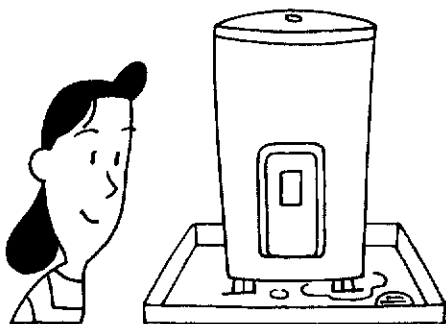
**⚠ 注意**

床面が防水処理・排水処理されているか確認すること。



排水処理の確認

万一水漏れが起きた場合、階下などに大きな被害をおよぼすおそれがあります。販売店にご相談ください。

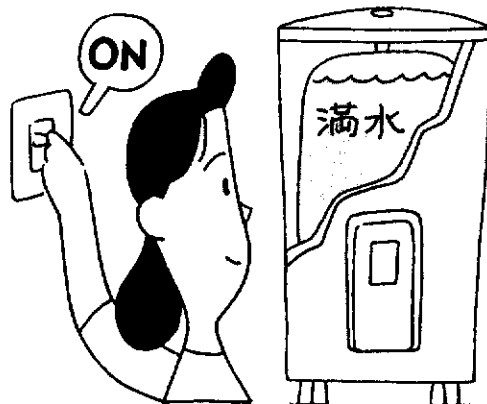


通電は満水状態にしてから行なうこと。



満水で通電する

タンクに水を入れずに通電すると過熱して故障の原因となります。故障の場合は販売店にご相談ください。

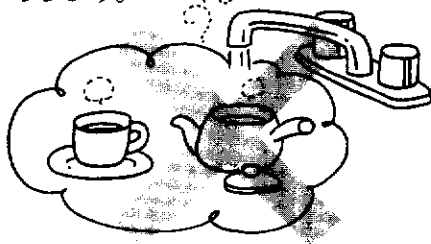


お湯は飲用としては使用しないこと。



飲用しない

配管材料の劣化により水質が変化した場合、下痢、腹痛など、体をこわすおそれがあります。

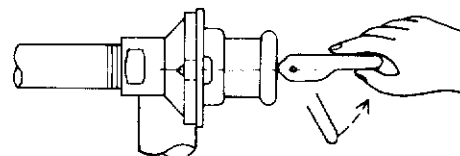


逃し弁の点検をすること。



逃し弁の点検

逃し弁の作動不良の場合配管漏れや、やけどすることがあります。故障の場合は販売店にご相談ください。(詳細は10ページのお手入れのしかたを参照してください。)

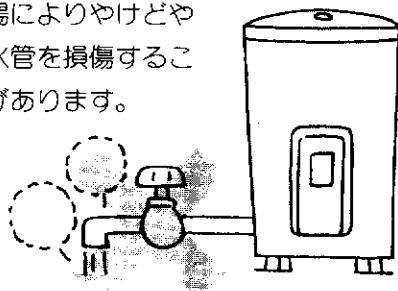


タンクの熱湯は直接排水しないこと。



熱湯排水しない

熱湯によりやけどや排水管を損傷することがあります。



1カ月以上使用しないときは、電源を「切」にしてタンクの水を排水すること。



長期不使用時の処置

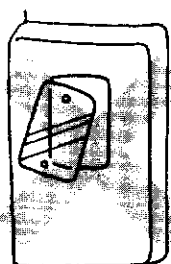
水質が変化することがあります。(詳細は4ページのご注意とお願いを参照してください。)

温水器点検窓(電源操作部)の点検カバー(操作部カバー)は閉じておくこと。



操作部のカバーは閉じる

開いていると雨やごみが入り漏電・感電の原因となります。

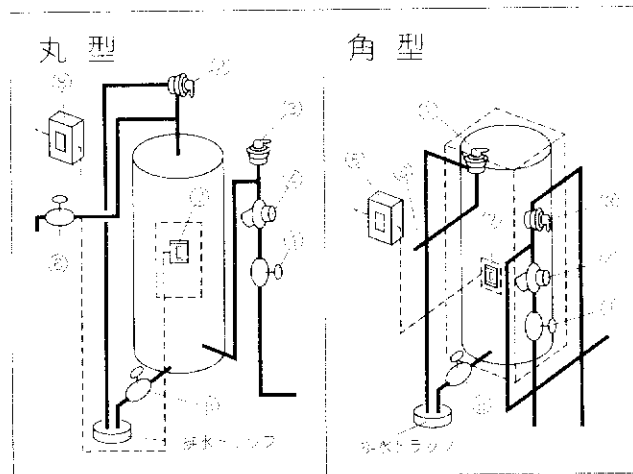


# ご注意とお願い

長期間ご使用にならないときは、電源を「切」にしてタンクの中の水を抜き、空にしてください。再使用のときは、タンクの中の水を入れかえてから使用してください。

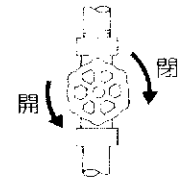


- 1ヶ月以内であれば、給水を止め、漏電遮断器を「切」にしてください。
- 1ヶ月以上であれば、電源を「切」にしてタンクを空にしてください。
- タンク中の水は、長期間滞留すると腐ったりすることがあります。



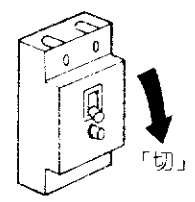
1

温水器の専用止水栓①を閉める。  
減圧弁の負圧弁から水漏れがないか確認してください。  
(10ページのストレーナーの清掃参照)



2

電源を切る。  
漏電遮断機7、配線用遮断機8を「切」にしてください。



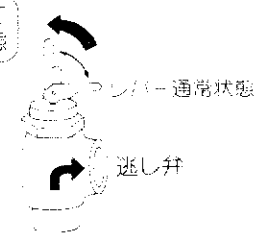
3

逃し弁②のレバーを上げる。



逃し弁のレバーを立てることにより、水を出したり空気を取り入れたりします。通常状態では、レバーが下がった状態です。

給湯側逃し弁



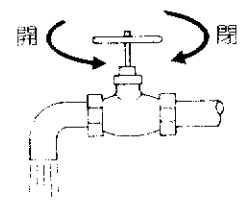
4

排水栓⑤を開ける。

30分程度でタンクは空になります。排水栓の先のパイプから水が出なくなったことを確認してください。



- 排水トラップから水が溢れないようにバルブの開きぐあいを調整してください。
- 排水するときは、一時浴槽に給湯し水でうすめて(低温にして)排水してください。



5

再使用するとき

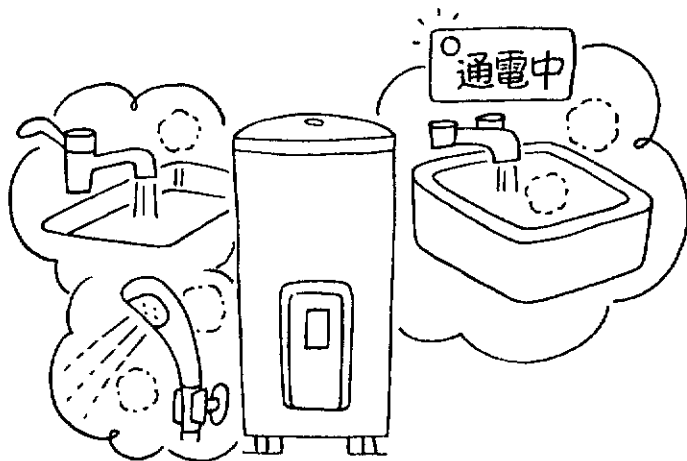
逃し弁②のレバーを上げる。→ 止水栓①を開ける。→ しばらく水を流す。→ 排水栓を締める。  
→ 15~20分後に逃し弁②から水が出るので逃し弁のレバーを下げる。→ 電源を「入」にする。  
の手順で進めてください。



- タンクが満水になったかどうかは、湯水混合水せんの湯側から空気が抜けた後、水が出ることを確認してください。
- 電源は、漏電遮断機7、配線用遮断機8を「入」にしてください。

2 つぎのような使い方は、湯量不足の原因になります。

- 来客の多いお宅。
- 間隔を開けて入浴をする。
- 雑用水に多量のお湯を使う。
- 食器洗いや洗濯などでお湯を流し続ける。
- 毎回フロのお湯を入替える。
- 朝夕2回入浴する。
- 深夜電力通電中に入浴する。
- 洗髪するときシャワーをながし続ける。



3 万一水漏れが生じたときは、温水器の止水栓を閉じてください。その後すぐに、セキスイまたは工事店、サービス店へご連絡ください。また本体の底面や配管が濡れていないか点検してください。特に集合住宅での漏水は階下へ被害をおよぼすことがあります。



排水処理の  
確認

4 断水中にシャワーの水を使わないでください。



熱湯注意

- 熱湯が出て、やけどのおそれがあります。

5 冬期に水道管が凍結するところでは、凍結防止対策をしてください。

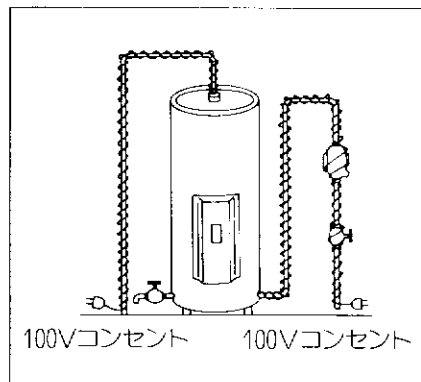


凍結防止の  
確認

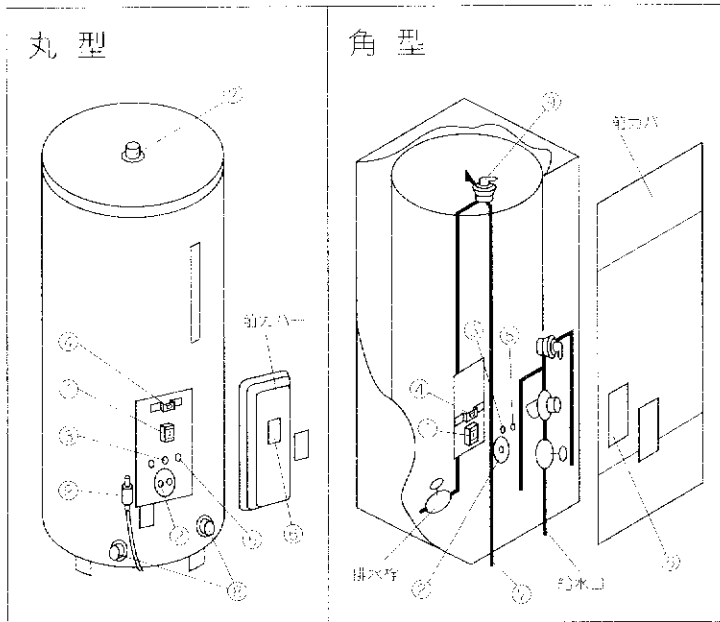
- 冬期気温が0℃以下になると配管などの凍りやすい部分の水が凍り始め0℃以下の気温が続くと凍結による体積膨張のため、減圧弁などが破壊するおそれがあります。水道管がよく凍結するところでは凍結防止ヒーターで保護する施工を販売店にご相談ください。

### 凍結防止工事の例

- 給水・給湯配管の凍結防止には、凍結防止ヒーター(電熱)の工事を工事店に依頼してください。



# 各部の名称とはたらき



200V通電中、万一本体で漏電したとき通電を止めます。

タンクの中のお湯を沸かします。

タンクの中の水が約85℃(65℃)になると通電を止めます。2値あります。

沸き上げ温度を高(85℃)低(65℃)に設定します。

お湯の温度が上がリ過ぎるのを防ぎます。

ここから漏電遮断器の点検と温度の切替えスイッチを操作します。

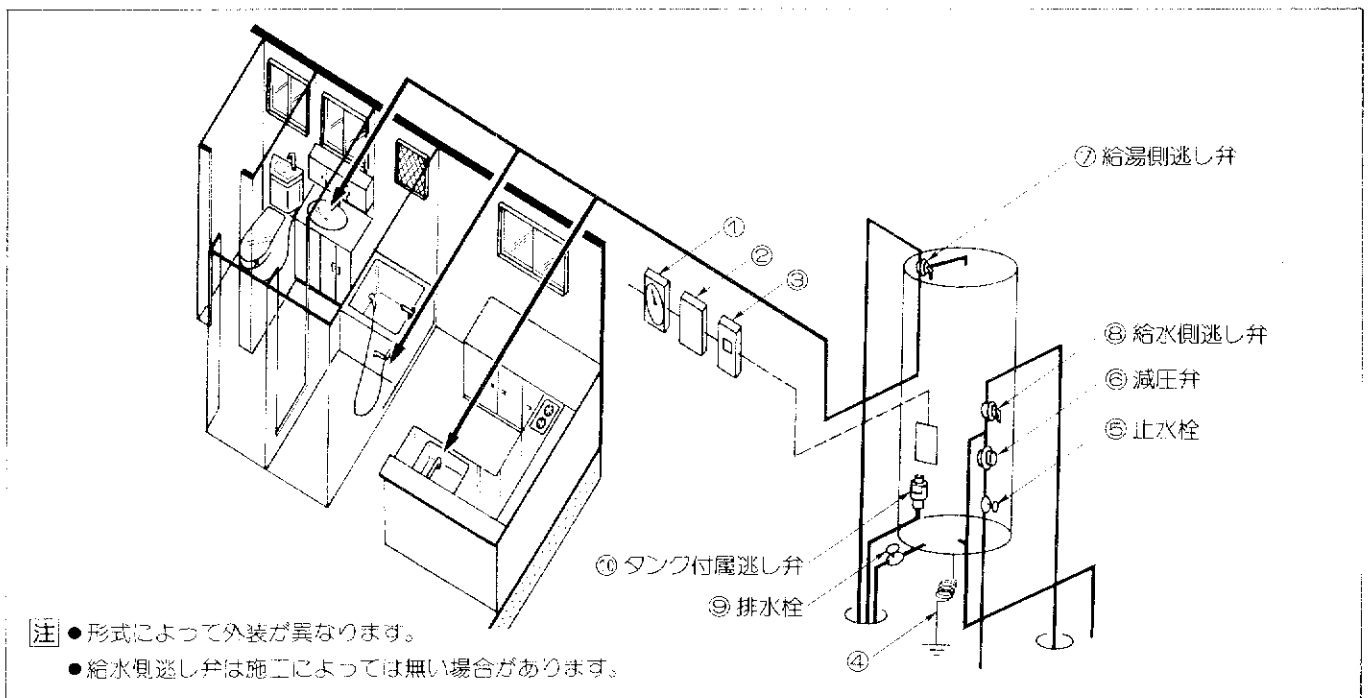
給湯管に接続し、タンクのお湯を送ります。

タンクへの給水口およびタンクからの排水口です。

タンク内の異常圧(3.0kgf/cm<sup>2</sup>)のとき、水を逃します。

## システム各部の名称とはたらき

ご使用になる前に、システム各部の名称とそのはたらきを、じゅうぶんにご承知おきください。主要部はつぎの通りです。



- 注**
- 形式によって外装が異なります。
  - 給水側逃し弁は施工によっては無い場合があります。

深夜電力の通電をコントロールします。

毎日の使用電力を計量します。

200Vの通電を行ないます。

万一、本体で漏電した場合地面へ逃がします。

タンクへの給水を止めます。

水道圧の圧力を減らし、一定に保ちます。減圧弁にはストレーナーが内蔵されています。

沸き上げ時にあふれたお湯を排出します。

逃し弁(A)が故障したときなど圧力が上がり過ぎるのを防ぎます。

タンクの水を排水するときに開きます。

タンク内の異常圧(3.0kgf/cm<sup>2</sup>)のとき、水を逃します。

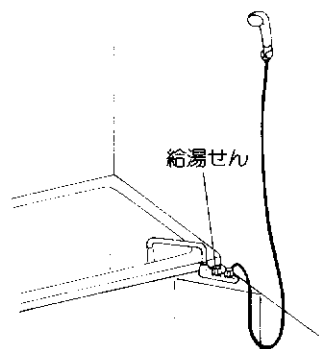
はじめてご使用になる場合、つぎの手順で操作をすすめてください。

1

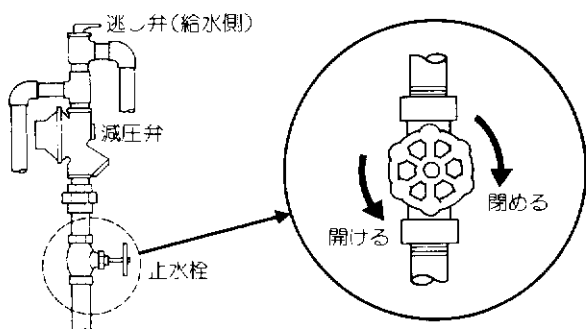
温水器のタンクの中が満水かどうか確かめてください。



満水で  
通電する



- 台所・洗面所・浴室のうち、どれかひとつの給湯せんを開き、水が勢いよく出てくればタンクは満水です。



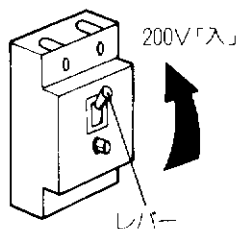
- 給湯せんを開いても水が出てこない場合は、止水栓(6ページ システム各部の名称とはたらき⑤)が開いているかどうか確認してください。閉じていた場合は、開いて満水になるまで待ってください。この止水栓を開いても、配管・温水器内の空気が抜けるまで水は出ませんから、しばらく開いたままにして水が出ることを確認してください。



- 温水器内、配管内部にゴミなどが入っている場合があります。ゴミなどがなくなるまで、給湯せんを開いて水をしばらく出したままにし、閉めてください。

2

屋外か室内の分電盤に設けられている配線用遮断器200V(6ページシステム各部の名称とはたらき③)が「入」になっていることを確認してください。



- 200Vは、スイッチが「入」の状態でないとは通電しません。

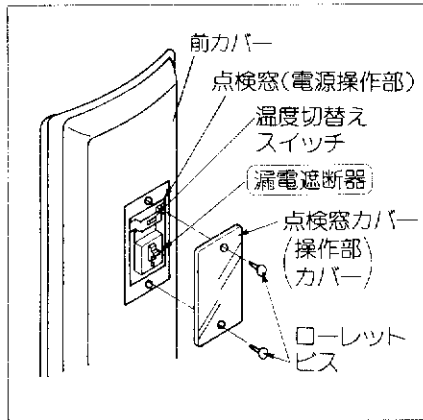


3

温水器の漏電遮断器を「入」にしてください。



注意

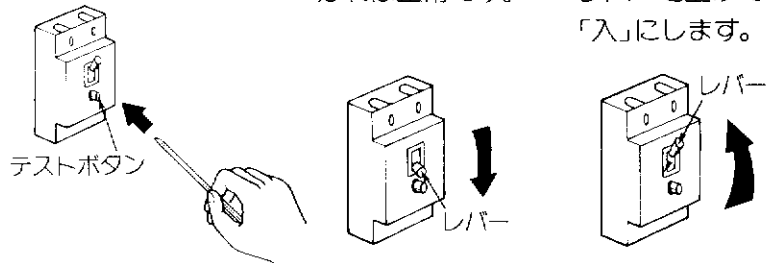


### 漏電遮断器のテスト手順

漏電遮断器のテストをしてください。

**注** 200V通電時以外は、ボタンを押してもレバーは下がりません。

- (1) テストボタンを押す。  
 (2) テストボタンを押して、レバーが下がれば正常です。  
 (3) 3回テストして正常であれば、再びレバーを上げて「入」にします。



4

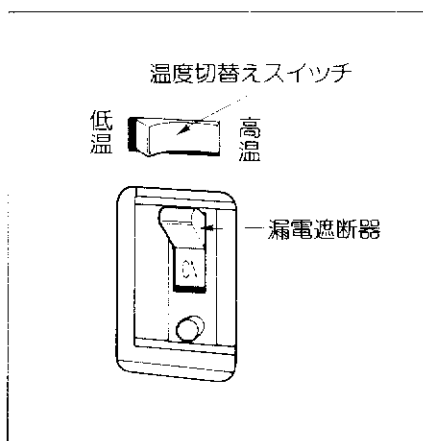
最初は本体の点検窓(電源操作部)のところにある沸き上げ温度切替えスイッチを操作してください。



注意



注意



●水と湯を混合して45°Cで使える湯量(計算値)のめやす。

|      | 冬用    | 中間用   | 夏用    |
|------|-------|-------|-------|
| 湯温   | 85°C  | 85°C  | 65°C  |
| 水温   | 5°C   | 10°C  | 20°C  |
| 300ℓ | 約600ℓ | 約640ℓ | 約500ℓ |
| 370ℓ | 約740ℓ | 約790ℓ | 約620ℓ |
| 460ℓ | 約920ℓ | 約980ℓ | 約770ℓ |

**注** ただし、46AK型はめやすよりも少なめとなります。

●沸き上げ温度


(高) 約85°Cと(低) 約65°Cに切替えられます。上の湯量のめやすを参考にして残湯量と季節によって選んでください。

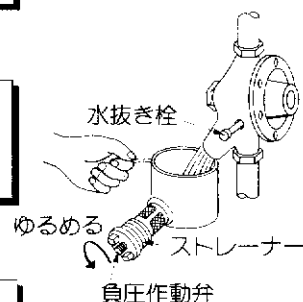
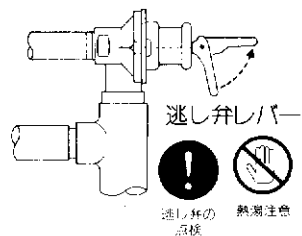
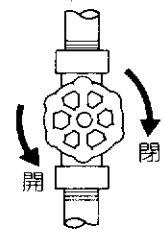
5

漏電遮断器(6ページ各部の名称とはたらき①)「入」で温水器は自動的に通電し、お湯を沸き上げます。

# 調子がおかしいとき（修理を依頼される前に）

つぎのようなときは、故障でないこともありますので、調べてください。

| 症状                 | 確認していただきたいこと  | 処置   |
|--------------------|---|--|
| お湯が出ない。<br>水が出てくる。 | 配線用遮断器が「入」になっていませんか。  | 遮断器を「入」にしてください。  |
|                    | 漏電遮断器が「入」になっていませんか。<br>激しい雷などで切れることがあります。   |  漏電遮断器の動作確認 |
| 水も湯も全く出ない。         | 止水栓が閉っていませんか。   | 止水栓を開けてください。   |
|                    | 冬期、配管などが凍結していませんか。  | 解凍を待ってください。<br>今後は販工店に凍結防止工事をご相談ください。  |
| お湯の量が不足する。         | 給湯せんからお湯漏れしていませんか。  | 給湯せんはしっかり閉めてください。  |
|                    | 逃し弁の排水管・タンク付属逃し弁から水漏れしていませんか。   | 逃し弁のレバーを2～3回上げ下げしてみてください。止まらないときは、上水栓を閉めてセキスイヘご連絡ください。                                       |
|                    | 湯温の設定が「低」になっていませんか。   | 「高」に設定してください。  |
| お湯の出方が少ない。         | 減圧弁・逆止弁のストレーナーにごみが詰っていませんか。   | ストレーナーの洗浄をしてください。<br>(減圧弁などの水抜き栓の漏れはしっかり閉めてください。)  |
| 沸き上げ温度が低い。         | 冬期水温が低いとき(5℃以下)で残湯量が少ないとき(20ℓ以下)の場合85℃に沸き上がりません。<br>深夜電力の通電中にお湯を使用していませんか。              | 効率良くご使用ください。   |
| お湯が白く濁って見える。       | これは水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、蛇口を開けたとき大気圧まで急速に減圧されることで細かい泡となって出てくる現象です。ビール等の泡と似た現象であり、全く無害なものです。 |  |
| 電気料金が高い。           | 逃し弁の排水管から水漏れしていませんか。  | 逃し弁のレバーを2～3回上げ下げしてみてください。止まらないときは止水栓を閉めてセキスイヘご連絡ください。  |









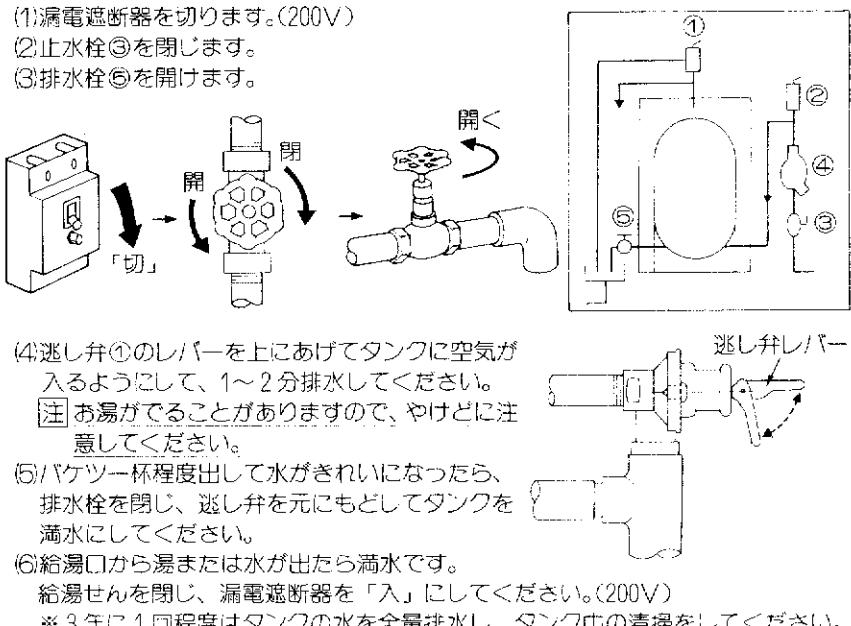


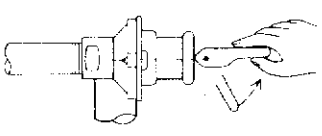
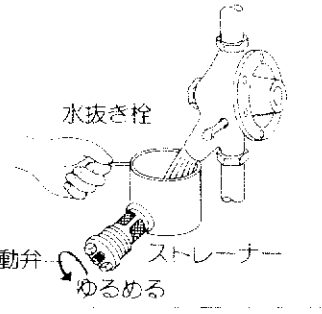


# お手入れのしかた

ふだんのご使用に際しては、手間いらずの電気温水器ですが、いつまでも快適にご使用いただくためには、日頃のお手入れが大切です。つぎの点検ポイントをご参考に、じょうずなお手入れをしてください。

## 点検ポイント

|          |   |
|----------|---|
| タンク清掃    | タンク内には、長時間使用すると水あかなどがたまりまます。                                  |
| 逃し弁の作動   | 逃し弁にゴミがつまってお湯が漏れると湯量不足になります。また湯あかが付着して作動不良になるとタンクの破損の原因になります。 |
| 漏電遮断器テスト | 万一の漏電の際に正常に作動するよう点検します。                                       |

| 項目        | 時期     | 点検とお手入れのしかた  |
|-----------|--------|--|
| タンク内の清掃   | 1カ月に1回 | <p>  (1)漏電遮断器を切ります。(200V)<br/>  (2)止水栓③を閉じます。<br/>  (3)排水栓⑥を開けます。<br/>  (4)逃し弁①のレバーを上にあげてタンクに空気が入るようにして、1~2分排水してください。<br/>  <b>[注]</b> お湯がでることがありますので、やけどに注意してください。<br/>  (5)バケツ一杯程度出して水がきれいになったら、排水栓を閉じ、逃し弁を元にもどしてタンクを満水にしてください。<br/>  (6)給湯口から湯または水が出たら満水です。給湯せんを閉じ、漏電遮断器を「入」にしてください。(200V)<br/>  ※3年に1回程度はタンクの水を全量排水し、タンク中の清掃をしてください。         </p>  |
| 漏電遮断器のテスト | 1カ月に1回 | <p>  (1)くわしくは8ページを参照してください。         </p>  |
| 逃し弁の作動テスト | 1カ月に1回 | <p>  (1)逃し弁のレバーを上げて排水操作をくり返して、水あかやゴミなどを洗い流してください。<br/> (2)操作後は、逃し弁のレバーを元に戻して排水が止まることを確認してください。<br/> <b>[注]</b> 逃し弁は上図①②ともテストしてください。         </p>   |
| ストレーナーの清掃 | 必要時    | <p>お湯の出が悪くなったとき、そのつどストレーナーを清掃してください。(減圧弁④についています)</p> <p> (1)止水栓③を閉じます。<br/> (2)ストレーナーのフタをはずし、中のあみを水で洗ってください。<br/> <b>[注]</b> ストレーナーをはずすとき2~3ℓの水が出ますからバケツなどで受けてください。<br/> (3)元通りに組込んでください。<br/> (4)止水栓③を開けてください。         </p>   |
| 配管の点検     | 1年に1回  | <p> (1)配管保温材の破損や配管・弁類からの水漏れがないか。<br/> (2)排水トラップからオーバーフローしていないか、タンク付属逃し弁から水漏れしていないか、異常のある場合は工事店へ修理を依頼してください。         </p>   |

# 保証とサービスについて

1  
2  
3  
4  
5

## 保証書について

必ず「販売店(工事店)」「据付日」などをご確認のうえ、保証内容をよくお読みいただき大切に保存してください。

## 保証内容について

- 保証期間は据付日から2年間です。
- 正常なご使用状態で、この期間内に万一故障が生じた場合は、保証書の記載事項にもとづき「無償修理」いたします。
- 無償期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有料で修理いたします。



## 点検と修理について

- 少しでもご不審の点がありましたら、販売点または当社指定のサービス店に点検・修理を依頼してください。
- 本品をより長くご使用いただくため、据付後、定期的な点検をご依頼ください。

## 補修用部品の最低保有期間について

- 当社はこの電気温水器の補修用性能部品を製造打切後最低7年間(BL品は10年)保有しています。なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 部品の交換時期のめやす

- 温水器の部品の寿命は、沸き上がり温度、水質など使用する条件によってかわりますが、一般的な交換時期のめやすを参考にしてください。

| 部 品 名             | 補修時期のめやす     | 補修方法     | 補 修 の 必 要 性  |
|-------------------|--------------|----------|--|
| ヒーター              | 5~8年         | 交換       | 水中の塩素などによって錆が発生し、強度が低下したり穴があいたりすることがあります。                                      |
| フランジパッキン          | 5~8年         | 交換       | 長期間使用すると、ゴムの弾性が減少しシール性がなくなったりゆるんだりします。また弁類は水中のスケールによって水もれしたり動かなくなったりすることがあります。 |
| 逃し弁<br>減圧弁        | 3~5年<br>5~8年 | 交換<br>交換 |  |
| 配管保温材             | 3~5年         | 補修       | 太陽の紫外線によって劣化することがあります。   |
| 温度過昇防止器           | 5~8年         | 交換       | 長期間の使用により、金属疲労が生じ接触部が損耗することがあります。  |
| 温度調節器             | 5~8年         | 交換       |  |
| 電磁接触器(リレー)        | 5~8年         | 交換       |  |
| タンクの逃し弁<br>(丸型のみ) | 3~5年         | 交換       | 水中のスケールやゴミが付着し水もれしたり動かなくなったりすることがあります。   |

# 仕 様

| 形 式            | 丸 型                 |           | 角 型       |            |           |           |        |
|----------------|---------------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|--------|
|                | MS-30S86K           | MS-37S86K | MS-46S86K | MS-46S86AK | KS-37S86K | KS-46S86K |        |
| タンク容量          | 300ℓ                | 370ℓ      | 460ℓ      | 460ℓ       | 370ℓ      | 460ℓ      |        |
| 定格 (発熱体单相200V) | 3.4kw               | 4.4kw     | 5.4kw     | 4.4kw      | 4.4kw     | 5.4kw     |        |
| 沸き上がり温度        | 約85℃・約85℃           |           |           |            |           |           |        |
| 重 量 (満水時)      | 52(352)kg           | 55(425)kg | 63(523)kg | 63(523)kg  | 72(442)kg | 84(544)kg |        |
|                | 巾                   | 669mm     | 669mm     | 722mm      | 722mm     | 667mm     | 765mm  |
| 外 径 寸 法        | 奥行                  | 708mm     | 708mm     | 760mm      | 760mm     | 770mm     | 845mm  |
|                | 高さ                  | 1476mm    | 1745mm    | 1819mm     | 1819mm    | 1905mm    | 1975mm |
| 安 全 装 置        | 漏電遮断器、温度過昇防止器、温度調節器 |           |           |            |           |           |        |
| 温 度 検 知        | バイメタル85℃・65℃±5℃     |           |           |            |           |           |        |
| 発 熱 体          | シースヒーター             |           |           |            |           |           |        |
| 配 管 口 径        | 給水・給湯・排水R3/4        |           |           |            |           |           |        |
| 設 置 場 所        | 屋外・屋内兼用             |           |           |            |           |           |        |

## 積水化学工業株式会社

環境システム事業部 大阪市北区西天満4-4-1 〒530-8536

### ●商品販売などのお問い合わせ

東京管工機材営業所 03(5521)0664 広島管工機材営業所 082(224)6251 高松支店 097(822)1011  
 静岡営業所 054(289)3052 岡山営業所 086(222)0851 松山営業所 089(931)3261  
 名古屋管工機材営業所 052(583)6115 松江営業所 0852(26)6800 福屋管工機材営業所 092(725)9280  
 大阪環境システム営業所 06(6365)4301 山口営業所 0834(64)2202 南九州営業所 099(258)4511

積水ホームテクノ株式会社 東北支店 022(287)5571

### ●アフターサービスなどのお問い合わせ

環境システム事業部 サポートセンター  
 ☎ 0120-302-503 (365日24時間受付)

資料No.

870924

2002.1 1TH.0Y